

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	377010255		
法人名	株式会社ケアサービスかがわ		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	香川県高松市香西南町37-2 (電話) 087-832-8335		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価決定日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 9月 13日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	19人	常勤	13人、非常勤 6人、常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての2階～4階部分		
------	----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円～48,000円	その他の経費(月額)	13,000円+実費
敷金	有()円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	25名	男性	6名	女性	19名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	51歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本医院 大塚歯科医院		
---------	-------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の建造物を改修してスタートしたグループホームであるが、ハード面では工夫されている。3ユニットが理念の「家族愛」を共有しながら、利用者がその人らしく生活ができるように工夫と努力をしている。利用者は、共有の時間や自由な時間を、穏やかな表情や笑顔でゆったりと過ごしており、これは、職員の情報共有やさりげない気配り、支援の成果として評価できる。身近な外出支援は、近所のスーパーで買い物をしたり、田園風景を眺めながら散歩をし、地域の人たちとの挨拶が交流になっている。また、外出計画を立て、3ユニット合同で実施し、ホーム全体の交流が図れている。職員は常に向上心を持っており、今後の更なる取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、各分野で改善項目があり、管理者や職員は課題を共有し、改善に向けて取り組んだが、再度改善項目となっている課題がある。継続的に、順次取り組む姿勢を期待したい。特に、地域との関わりについての課題は、運営推進会議がスタートし、現場の様子やホームの状況を提供したり、行事予定についても協力を依頼する等、関心を持っていただけるよう、少しずつではあるが理解が深められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットごとに職員全員で意見を出し合い、今後取り組んでいく項目を明らかにしており、自己評価に前向きに取り組んだ姿勢がうかがえる。これを実践につなげていく取り組みに期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在はホームからの報告が主であると思われるが、地域との連携の窓口になりつつある。しかし、会議メンバーの中に、家族や地域の役割を持って活躍している民生委員、老人会、婦人会等の固定した協力が得られていないので、運営推進会議への積極的参加を呼びかけ、会議の役割を理解したメンバーの土台作りが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、家族に利用者の暮らしぶりやホームの行事等の報告をしている。面会時には家族との話し合いの時間をもち、要望や意見、苦情を聞き、共有して運営に反映できるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣との関わりが大切なので、積極的にホーム周辺を散歩しており、挨拶、声かけ等に努力し、少しずつではあるが、つながりができつつある。地域からは、以前に比べて少数ではあるが、行事に参加してくれるようになってきている。ホームからの地域行事等への参加までには至っていないので、今後、これからの地域連携や活動に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	実践理念として、地域との関わりを深めていくことに取り組んでおり、気候のいい時にはホーム周辺を散歩し、顔なじみができ、声をかけてくれるようになってきている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「家族愛」、「自由でゆとりのある生活」を理念とし、具体的実践項目として、「薬を使わない」、「おむつはずし」を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議がスタートしたが、メンバーに民生委員、老人会、婦人会等には入ってもらえず、今後の課題となっている。	○	地域性のこともあり、難しい面もあると考えられるが、あきらめずに、今後も働きかけていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ユニットごとに職員全員で話し合いをし、改善点を見出している。これを改善し、成果を挙げる努力が必要と考える。前回の評価の取り組みについて、大きな変化が見られないのが残念である。	○	取り組みを期待されること全てをクリアすることは困難と考えられるので、職員全員で話し合いをし、一つずつ取り組み、改善されたことを表現できるようになることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開始したところで、情報の提供がされているという段階と考えられる。	○	今後、更に深めていくことに取り組む、地域の中で共に生活できる環境作りを考え、地域の老人会、婦人会等と交流が持てるようになることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	身近にある地域包括支援センターと密に連携をとり、情報の共有化が必要と考える。	○	運営推進会議のメンバーに民生委員が入ってもらえない等、課題があると思われるので、市町と共にサービスの向上に取り組んで欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に近況報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見、苦情等を聞く機会を持ち、出された意見は運営に反映するように努めている。また、利用者の言葉や態度から、その思いを察するよう努力されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関して、特に取り組んでいることは、三つのユニット内で行っていることである。これは外出のとき合同での企画で行うため、馴染みの関係を持つことを意図している。また、お互いに緊急時などにフォローしあうことができる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の研修には順次参加しているが、研修計画、研修受講後の伝達等がなされていないと思われる。	○	職員を育てることが大切と考えられるので、全職員が一律ではなく、新人教育、更に中堅と段階を踏んだ研修計画を立てて取り組む工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流することが、今後の課題と思われる。研修会で知り合った同業者と交流を持ったことがあり、非常に学ぶことが多かった。	○	お互いにホームを訪問見学することにより、気づくことも多く、学びあう機会として欲しい。同業者同士が協働しながら質の向上に取り組むために、地域包括支援センター等を通じて、広がっていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の段階から、本人の状況、要望を把握し、家族とも話し合ったうえで、徐々に馴染めるように、工夫しながらサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族のような思いで接し、人生の先輩である入居者からいろいろ教えてもらえ、介護する立場、される立場ではなく、「共に過ごし、学び、支え合う」関係を築き、楽しく過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩、買い物、美容院、銀行へ行きたい等、本人の希望をできるだけ尊重して対応している。		
r					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望、ケアのあり方について、課題となることを職員全員でよく話し合ったうえで、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、ケアカンファレンスを行い、職員全員で意見を出し合っており、見直しを行っている。更に、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、状態の変化や状況に応じて見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に、できるだけ添えるように対応している。また、終末期のケアについては、家族の希望により、対応していく方針である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望どおり受診できている。家族が不可能な時は、職員が通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに実例はないので、重度化、終末期のあり方については、家族の希望に添えるように取り組んで欲しい。	○	対応方針を定め、体制作りと研修が必要と考えられるので、マニュアルを作るなど、検討を重ねていくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の生活歴を尊重し、言葉かけ、接し方等、個別性を大切に対応できている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	冷房が嫌いな人に対して、朝は汗をかいているので、体を拭いてから服を着替えている。こうしたことが本人を落ち着いた状態にしていると考えられ、家族も喜んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに、入居者の状態に応じて当番制にしているところもあり、朝から張り切って手伝ってくれる。うまく役割分担がされ、入居者も生き生きとしており、職員は手出しをせず見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や本人の希望にあわせて、昼と夜で対応している。ただし、特別浴は職員の都合によることが多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、花が好きな人は花を生け、茶道をしていた人はお茶を振る舞い、手芸の好きな人などはそれぞれ楽しみ、気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出計画を立て、月に2～3回、3ユニット合同で、うどん、寿司などを食べに行ったり、公園など外へ出ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件から安全性を考えると、鍵をかけないことは不可能と思われる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練などを2～3年実施していない状況である。地域の協力という点から、運営推進会議との連携も取られていないと思われる。	○	ハード面で既存の施設を改修した所であるので、特に、年に1回は消防等の専門家による訓練を実施されることが望ましい。更に、運営推進会議等を通じて、協力体制の確立を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助が必要な人には、その人のペースに合わせて無理強いすることなく摂取されている。水分補給についても、寝たきりの方には時間をかけて支援がなされている。また、記録もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改修されたホームであるが、共有空間をうまく利用して、くつろげるソファと食堂兼居間的感觉のテーブルと椅子があり、好きな場所でくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、使い慣れた物が置かれており、仏壇が置かれている部屋もある。それぞれの居室という感じがうかがえる。		